

岡 病 防 第 1 0 号  
令和 7 年 7 月 30 日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第 5 号を下記のとおり発表したの送付します。

令和 7 年度病虫害発生予報第 5 号

令和 7 年 7 月 30 日  
岡 山 県

予 報 概 評

| 作 物 名 | 病 害 虫 名        | 発生時期 | 発 生 量      |
|-------|----------------|------|------------|
| 水 稻   | 葉いもち(中生種、晩生種)  | —    | やや少        |
|       | 穂いもち(極早生種、早生種) | —    | 並          |
|       | 紋枯病            | —    | やや少        |
|       | 白葉枯病           | 並    | 並          |
|       | 穂枯れ(早生種、中生種)   | —    | <b>やや多</b> |
|       | ニカメイガ          | 並    | 並          |
|       | セジロウンカ         | —    | やや少        |
|       | トビイロウンカ        | 並    | やや少        |
|       | イチモンジセセリ       | 並    | やや少        |
|       | コブノメイガ         | —    | やや少        |
|       | カメムシ類          | —    | <b>やや多</b> |
| ダイズ   | べと病            | —    | 並          |
|       | 紫斑病            | —    | 並          |
|       | ハスモンヨトウ        | —    | 並          |
| モ モ   | モモハモグリガ        | —    | 並          |
|       | ナシヒメシンクイ       | —    | 並          |
|       | ハダニ類           | —    | <b>やや多</b> |
| ブドウ   | さび病            | 並    | 並          |
|       | 褐斑病            | —    | やや少        |
|       | べと病            | —    | やや少        |
|       | ブドウトラカミキリ      | 並    | 並          |
|       | フタテンヒメヨコバイ     | 並    | 並          |

| 作物名     | 病虫害名        | 発生時期 | 発生量        |
|---------|-------------|------|------------|
| キュウリ    | べと病         | —    | 並          |
|         | うどんこ病       | —    | やや少        |
|         | 褐斑病         | —    | やや少        |
| トマト     | 疫病          | やや遅  | やや少        |
|         | 葉かび病        | —    | やや少        |
| ダイコン    | 軟腐病         | —    | <b>やや多</b> |
| アブラナ科野菜 | キスジノミハムシ    | —    | <b>やや多</b> |
| 野菜共通    | アブラムシ類      | —    | やや少        |
|         | ミナミキイロアザミウマ | —    | <b>やや多</b> |
|         | ハスモンヨトウ     | —    | 並          |
| キク      | ハダニ類        | —    | <b>やや多</b> |

## 1 普通作物

### (水 稲)

#### (1) 葉いもち（中生種、晩生種）

予報内容

発生量                      やや少

予報の根拠

ア． 7月24、25日の巡回調査によると、県南部地帯の発生ほ場率は5.6%で平年(40.7%)より低かった。

イ． 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

#### (2) 穂いもち（極早生種、早生種）

予報内容

発生量                      並

予報の根拠

ア． 7月24、25日の巡回調査によると、県北部地帯の葉いもちの発生ほ場率は24.1%で平年(13.0%)よりやや高く、中部地帯は16.7%で平年(46.5%)より低かった。

イ． 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

#### (3) 紋枯病

予報内容

発生量                      やや少

予報の根拠

ア． イネの茎数は、概ね平年並である。

イ． 7月24、25日の巡回調査によると、発生ほ場率は4.5%で平年(15.0%)より低かった。

ウ． 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は

ほぼ平年並とされており、発生を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア．昨年多発生したほ場では伝染源が多いと考えられるので、ほ場をよく観察し、適切に防除を行う。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア． 7 月 24、25 日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ． 7 月 24 日発表の 1 か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア．台風による暴風雨や豪雨による浸冠水は本病の発生を助長し、急激にまん延する場合があるため、豪雨により浸冠水したほ場では、発生状況をよく観察し、適切に防除を行う。

(5) 穂枯れ（ごま葉枯病菌による穂枯れ：早生種、中生種）

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア． 7 月 24、25 日の巡回調査によると、県内全域での葉におけるごま葉枯病の発生ほ場率は 11.4%で平年（3.2%）よりやや高かった。

イ． 7 月 24 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件となる。

(6) ニカメイガ（第 2 世代幼虫）

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア．赤磐市のフェロモントラップにおいて、7 月 4 半旬までに誘殺は認められず、平年（0 頭）並であった。

イ． 7 月 24、25 日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア．赤磐市の予察灯における 7 月 1～4 半旬の飛来数は、0 頭で平年（10.5 頭）より少なかった。

イ． 7 月 24、25 日の巡回調査によると、発生ほ場率は 12.5%で平年（39.4%）より低く、すくい取り（20 回振り）調査での成幼虫数は 1.4 頭で平年（21.9 頭）より少なかった。

ウ． 7 月 24 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生時期                    並  
発生量                      やや少

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯では7月1～4半旬の飛来を認めておらず、平年（0.9頭）よりやや少なかった。
- イ. 7月24、25日の巡回調査によると、発生ほ場率は0%で平年（0.6%）よりやや低かった。すくい取り（20回振り）調査では発生を認めておらず、発生ほ場率は平年（0.7%）より低かった。
- ウ. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

防除上の参考事項

- ア. ほ場をよく観察し、要防除水準（成幼虫合計で株当たり10頭以上又は短翅型雌成虫で株当たり0.2頭以上）を超えるほ場では、直ちに防除を徹底する。
- イ. 本虫はほ場内に局在し、また稲の株元に集中するので、より多くの稲の株元を丁寧に観察する。

(9) イチモンジセセリ（第2世代幼虫）

予報内容

発生時期                    並  
発生量                      やや少

予報の根拠

- ア. 7月24、25日の巡回調査によると、発生ほ場率は0%で平年（2.8%）よりやや低かった。
- イ. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生量                      やや少

予報の根拠

- ア. 7月24、25日の巡回調査によると、発生ほ場率は0%で平年（6.2%）より低かった。
- イ. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(11) カメムシ類

予報内容

発生量                      やや多

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯における7月1～4半旬のアカスジカスミカメの誘殺数は276頭で平年（399.2頭）よりやや少なく、イネカメムシの誘殺数は19頭で過去3年間の平均（14.0頭）よりやや多かった。また、真庭市の予察灯における7月1～4半旬のアカスジカスミカメの誘殺数は、64頭で平年（73.1頭）並であった。

イ. 7月23、24日の県北部イネ科牧草地のすくい取り調査(20回振り)では、アカスジカスミカメの発生量は1地点当たり128.5頭で平年(56.7頭)より多かった。

ウ. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

#### (ダイズ)

##### (1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

##### (2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

##### (3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察ほ場(赤磐市)のフェロモントラップにおける7月1～4半旬の誘殺数は118頭で、平年(286.5頭)よりやや少なかった。

イ. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

## 2 果 樹

#### (モ モ)

##### (1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～4半旬の誘殺数は0頭で、平年(0.6頭)並であった。

イ. 7月18日の巡回調査では発生を認めず、平年(0%)並であった。

ウ. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

##### (2) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～4半旬の誘殺数は18頭で、平年(13.9頭)並であった。

ウ. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

やや多

ア. 7月18日の巡回調査によると、発生ほ場率は46.4%で平年(22.1%)よりやや高かった。

イ. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

並

並

ア. 7月18日の巡回調査によると、発生ほ場率は0%で、平年(2.7%)並であった。

イ. 7月24日発表の1か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

やや少

ア. 7月24日の県予察ほ場での発病葉率は75.9%で平年(42.7%)よりやや高かった。

イ. 7月18日の巡回調査によると、発生ほ場率は18.2%で平年（32.7%）より低く、発生程度は軽微であった。

ウ. 7月24日発表の1か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

や や 少

ア. 7月24日の県予察ほ場での発病葉率は13.8%で平年(40.7%)より低かった。

イ. 7月18日の巡回調査によると、発生ほ場率は81.8%で平年(88.2%)並であった。

ウ. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月18日の巡回調査において平年同様発生を認めなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ (第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月18日の巡回調査によると、発生ほ場率は0%で平年(1.4%)並であった。

### 3 野 菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月18日の県予察ほ場での発病葉率は2.6%で、平年(37.3%)より低かった。

イ. 7月17、18日の巡回調査によると、発生ほ場率は90.0%で平年(68.0%)よりやや高かった。

ウ. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月18日の県予察ほ場での発病葉率は29.4%で、平年(24.6%)並であった。

イ. 7月17、18日の巡回調査によると、発生ほ場率は10.0%で平年(34.0%)より低かった。

ウ. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月18日の県予察ほ場での発病葉率は3.5%で平年(23.5%)よりやや低かった。

イ. 7月17、18日の巡回調査によると、発生ほ場率は10.0%で平年(34.8%)よりやや低かった。

ウ． 7 月 24 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

#### (トマト)

##### (1) 疫 病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア． 7 月 17、18 日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年 (6.0 %) 並であった。

イ． 7 月 24 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

##### (2) 葉かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア． 7 月 17、18 日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年 (16.3 %) より低かった。

イ． 7 月 24 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

#### (ダイコン)

##### (1) 軟腐病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア． 7 月 17 日の巡回調査によると、発生ほ場率は 25.0% で平年 (34.2%) 並であった。

イ． 7 月 24 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

#### (アブラナ科野菜)

##### (1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア． 7 月 17 日の巡回調査によると、ダイコンでの発生ほ場率は 33.3% で平年 (17.5%) よりやや高かった。

イ． 7 月 24 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

#### (野菜共通)

##### (1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア． 県予察ほ場 (赤磐市) の黄色水盤への 7 月 1 ～ 4 半旬の飛来数は 26 頭



イ. 7月17、18日の巡回調査によると、トマトでは発生ほ場率が0%で平年(24.9%)より低く、キュウリでも発生ほ場率は0%で平年(35.0%)より低かった。

イ. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

ウ. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

イ. 7月24日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

